

開抄

屬之建家共悉皆尚便
被竹牙受此後年何法也

明正六年二月廿八日

開抄官憲南法隆

正院

正院

伺之道

正院

明正六年二月廿八日

弟抄書

正院

系抄以高正院法隆

先取魯家字海月... 待踏遇
... 禮曲... 執約...
... 旅難... 爲... 更...

開抄

食物と隣りて其種に於ては
 以て其の用とす。其の用は
 其の用とす。其の用は
 其の用とす。其の用は

屬之者
 被仰

昭監

伺

服

第拾三

先服

了

符

口

事

年之及者寺院之年在深之身者於此
 後也之... 供養... 之... 也
 意多秋... 也... 也... 也... 也...
 國... 也... 也... 也... 也... 也...
 大... 也... 也... 也... 也... 也...
 二十一... 也... 也... 也... 也... 也...
 兼... 也... 也... 也... 也... 也...
 勢... 也... 也... 也... 也... 也...

供... 也... 也... 也... 也... 也...
 年... 也... 也... 也... 也... 也...
 同... 也... 也... 也... 也... 也...
 相... 也... 也... 也... 也... 也...

明治六年三月八日

同之趣空願金ノ内ナシテ

辨後可致也

明治六年三月八日 正院 之印

魯親王鄉良意入費潤書

開拓使

函館支店

開拓使

魯親王親良准入用調書

一金貳百五拾九圓

魯親王為孫館淨寺寺
係上檀越者初度受經入
用七月廿六日申川權少主典
液

一金拾壹圓九千錢

孫館相用山作花出末
入用七月廿六日有田使掌後

一金三千九拾六圓五十錢

食事蒸棧外買六次
六月廿五日西村勝三度

一金百五拾貳圓

サシ三箱セリ七箱買六次
六月廿五日松本宗吉度

一金三拾貳圓五拾錢

石炭油拾管買式七月昔
官部長七度

一金四拾圓五拾錢

右清名東京ヨリ函館運積
越運賃七月昔木村萬平度

一金六拾圓九拾七錢八厘

旅館右角旗章二流出来
八月九日西澤共壽度

一金五拾五圓器壹錢五厘

フウフ草二本取建 蒸棧
一個白草壹一個出来入用
八月廿日杉山大主典度

一金拾三圓五拾錢

食事蒸棧之組一個出来入用
九月十二日松山大主典度

一金十六圓五拾錢

蒸棧及和紙等九月十九日
杉山大主典度

一金七圓貳拾五錢

同上ニア脩履入用九月
廿日佐山仲主典度

一金百拾三四五拾七錢八毛

器械及橫濱及東京三買上
代九月廿九日 玉木篤海

一金四拾三四

賣焚カツル一器買上代
十月五日 作山中主典海

一金九拾八錢

旅籠取締、為宿直之者兩人
九月廿三日 同廿九日 赤當料
十月八日 作山中主典海

一金拾九四五拾錢

旅籠取張、取用、廿三金買
上代十月十二日 作山中主典海

一金貳拾七圓

旅籠取用、火爐二器買上
代十月十四日 内注田權丁主
典海

一金三拾六圓

布團三枚新、相入、十月廿日
作山中主典海

一金六圓九拾七錢貳厘

郷食應、為半飼、立用大豆、五分
買上代十月廿一日 西沢孫兵衛
海

一金拾六圓

旅籠、火爐、三所、仕付、及、烟筒、一
ヶ所、并、銅、鍋、拾、壹、枚、出、米、入、用
十月廿二日 中川少主典海

一金三百貳拾圓

孫龍淨土寺再及櫻林齋
入用十月廿廿中川少主典後

一金七拾三圓六拾九錢貳厘

孫龍寺南院裝機買土主入用
十月廿廿中川少主典後

一金貳拾壹圓

血瓶三浦少子下脩覆入用
續豐次買金十一月四日杉山
大主典後

一金三圓拾貳錢五厘

上廣場言孫龍途途中點燈
行二替本買土主典後
四日中川少主典後

一金百圓拾四錢八厘七毛

魚親王為接待遊樂部形
之呼寄往返旅費及津貼
贈神產物共十月廿四日中主典後

一金三拾三圓

割嘉方有雇以支那人外
雇料十一月十日作中主典後

一金四圓貳拾錢

孫龍為及締宿直之者
十月廿廿日同論日直赤當料
十月十二日作山中主典後

一金三拾六圓六拾六錢七厘

會繼依頼談石炭二百噸拂
後以積以箇立之手配人足
賃十月十二日西村權少主典後

但箇之手配在馬以後檢課
元費

一金百三拾八兩五拾八錢九毫

旅館ニ在用ノラフ六流形
酒等諸物松詰所炭薪等
諸雜品買上付共二月廿四日
吉渡

一金拾壹兩八拾七錢

郷倉廩入用酒肴料月
廿四日迄同権少主典渡

一金壹兩五拾三錢七毫五毛

船主入港遠見之者楚
用此七俵買上并期介共
同日同入渡

一金百四拾貳兩拾錢七毫五毛

郷倉廩入用倉用品種々
買上付同日同入渡

一金拾八兩拾貳錢五毫

旅館エカッヘル仕入用及
外津木枓代共銅屋
久等郎ニ在渡同日同入渡

一金九拾兩四拾七錢壹毫

郷倉廩入用倉用品種々買
上付同日同入渡

一金三拾三兩三錢三毫

上登道筋敷小春格買
上并運送人又貸其池田
栄七二二番屋主月廿四日
カ主典渡

一金拾兩

郷倉廩入用倉用品種々
給料十月廿七日付矢主典渡

一金三拾七錢五厘

魯船入港遠見之者掛用炭洞家分式俵付金十月廿七日於火主典渡

一金貳拾七兩拾四錢三厘六毫

御家應入用家鴨生外田買止代青百杉出弄渡

一金七兩三拾壹錢貳厘五毫

馬車別當屋上類代足袋料同伊後壽式渡

一金拾七兩六拾壹錢

魯親王帶向中市申見廻羅平雜高料音百山内檢檢官渡

一金九兩

每火焚人足貳貳金錢三月朔日過嘉左西渡

一金壹兩貳拾六錢

旅館為不備宿也者上月朔日九日延難當料二月十三日守弄渡

一金六拾四兩

旅館臨時入當繕用及以用結不崩入用廿七日大工朝田重三渡

一金五拾兩

為旅館淨言寺借上中子當及人及入延公當金一月三十日大集坊渡

一金三円

藤節旗幟二枚、模拓習
功制人夫、万村二月四日
杉山大三典渡

一金六円貳拾錢八厘

飯糰應入用老烟草百五拾
廿買上并飯糰拭洗濯
代二月四日高澤中馬渡

一金五拾五円拾八錢壹厘

同新入用品買上件
二月四日右同人渡

合金五千四百四拾七円六拾四錢四厘三毛

右者魯國親王来亟、分旅館當務及
饗應、其外共貳入用仕上書面之通候也

明治六年
二月十日

開拓使館雙廳

第拾部多

三ノ千号
正院赤中

岡拓次官里田清隆

三ノ千号外郎者
三ノ千号内郎者

五ノ百

三ノ千号

函彼在苗英為フレッキストン召抱而因
人毒六外一人と盗之致し其教を

南二月十八日フレッキストン呵責し上り擲

其の翌夜ニ至り日未の終ニ板敷ハ

入申し置るも其の終ニ於て縊死